

お知らせ

『中京大学英米文化・文学会 秋季大会特別講演会』

中京大学英米文化・文学会は、標記の講演会を、下記の通り、
中京大学大学院国際英語学研究科英米文化専攻と共催いたします。

皆様のご来場をお待ちしております。

記

演題：『マーガレット・アトウッドが魅せる文学と環境』

講師： 佐藤アヤ子 明治学院大学特命教授

日時： 2017年12月19日(火) 13時10分～14時40分
場所： 名古屋キャンパス 5号館 2階 523教室
入場料： 無料

【講演内容】

カナダの著名な作家 Margaret Atwood は、次のような質問を昨今多くの読者から受けるという。「希望はありますか？」質問の意図はこうである。「私たちの地球に希望がありますか？人類の生命維持システム、つまり私たちが口にする食物や水、そして空気を提供する生物圏は大丈夫か」ということである。

アトウッドは時代が抱える問題やエトスを敏感に捉え、それを創作に生かす作家である。21世紀にはいるとアトウッドは、それまでのフェミニズム小説や歴史小説、心理小説から大きく転換して、関心を環境に向けている。その変化を「マッドアダム」の三部作である『オリクスとクレイク』(*Oryx and Crake*)、『洪水の年』(*The Year of the Flood*)そして、『マッドアダム』(*MaddAddam*)にみることができる。これらの作品は共に人類の存亡の危機で始まる近未来が舞台で、環境に関わる鋭い問題意識を込めた小説である。本日のレクチャーでは、この三部作を中心に、さらに最新作で、アトウッドの初めてのグラフィック小説である『エンジェル・キャットバード』(*Angel Catbird*)の三部作にも触れながら、なぜアトウッドが環境をテーマにした物語を創作したのかをお話したい。

佐藤アヤ子：明治学院大学特命教授、日本カナダ文学会会長、日本ペンクラブ常務理事
カナダ文学・映画に関する著書・論文を多数発表。マーガレット・アトウッドの著作を含め、カナダの小説、戯曲を翻訳。

問合せ先：中京大学国際英語学部英語圏文化専攻アームストロング研究室内

Tel: 052-835-7378 / E-mail: cjarms@lets.chukyo-u.ac.jp